

芦屋市立学校園長 様

芦屋市教育委員会
教育長 野村大祐

熱中症対策の徹底について

気温が高く、危険な暑さが続く夏季期間は、命に係わるケースもある熱中症事故のリスクが高く、学校教育活動等の実施に当たっては、実施体制や指導内容等に一層の注意が必要となります。（5月の暑い日、梅雨の晴れ間、梅雨明け、お盆明けは「熱中症に特に注意が必要な時期」と言われております。）

つきましては、下記の内容を確認いただき、貴校所属職員に対して周知徹底願います。

記

○暑さ指数（WBGT）が31以上を計測している場合、**運動（部活動、体育の学習、外遊びなど）を中止する。**

（※暑さ指数については、環境省熱中症予防情報サイトの発表する数値を判断基準にする。）

（QRコード：環境省熱中症予防情報サイト）



○帽子の着用や水分補給を呼びかけるなど、児童生徒の登下校にも十分留意する。

～運動に関する指針～

気温 (参考)	暑さ指数 (WBGT)	熱中症予防運動指針	
35℃以上	31 以上	運動は原則中止	特別の場合以外は運動を中止する。 特に子どもの場合には中止すべき。
31～35℃	28～31	厳重警戒 (激しい運動は中止)	熱中症の危険性が高いので、激しい運動や持久走など体温が 上昇しやすい運動は避ける。 10～20分おきに休憩をとり水分・塩分の補給を行う。 暑さに弱い人は運動を軽減または中止。
28～31℃	25～28	警戒 (積極的に休憩)	熱中症の危険が増すので、積極的に休憩をとり適宜、水分・塩 分を補給する。 激しい運動では、30分おきくらいに休憩をとる。
24～28℃	21～25	注意 (積極的に水分補給)	熱中症による死亡事故が発生する可能性がある。 熱中症の兆候に注意するとともに、運動の合間に積極的に水 分・塩分を補給する。
24℃未満	21 未満	ほぼ安全 (適宜水分補給)	通常は熱中症の危険は小さいが、適宜水分・塩分の補給は必要 である。 市民マラソンなどではこの条件でも熱中症が発生するので注 意。

（出典：日本スポーツ協会「スポーツ活動中の熱中症予防ガイドブック」（2025）より）